

子どもたちの笑顔のために

～日野町幼児教育保育環境の再整備について～

日野町 子ども支援課

時代の変化と町の幼児教育保育をめぐる課題

長期的な人口**減少** 少子化による子どもの減少

保育ニーズの**変化** 長時間保育を求める保護者が増えている

保育所の入所者の**拡大** ... 特に低年齢児からの入所希望が増えてきている

※0歳児の2人に1人、1才・2歳児の3人に2人が入園申込みしている(令和6年度)

幼稚園の入園者の**減少** ... 町内4つの幼稚園全体の定員充足率は30.4%

施設の**老朽化** 町内の公立園のほとんどが30年を経過

保育士等の**不足** 保育の質向上のための保育人材の確保課題

出生数の減少と保育所・幼稚園入園状況の変化

単位：人

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
出生者数	190	159	190	173	160	144	165	144	142	122	117	106
就学前人口	1,162	1,112	1,087	1,114	1,087	1,029	1,023	992	994	934	919	857
保育所入所者数	315	330	362	394	427	439	426	424	443	426	418	426
幼稚園入所者数	353	337	327	317	282	241	281	272	256	227	210	176
在宅	494	445	398	403	378	349	316	296	295	281	291	255
保育士・教諭人数	124	129	140	141	139	169	179	191	180	186	188	201

※保育士・教諭人数については、会計年度任用職員（フルタイム・パートタイム）を含む延べ人数

町の幼稚園・こども園・保育所の定員、在籍数と施設の状況

(令和6年4月1日現在)

	日野幼稚園	西大路幼稚園	南比都佐幼稚園	必佐幼稚園	桜谷こども園	あおぞら園	鎌掛分園	こばと園	わらべ保育園	第二わらべ保育園
定 員	180人	90人	90人	180人	120人	75人	30人	90人	90人	80人
園児在籍数	80人	11人	10人	63人	75人	80人	20人	93人	79人	83人
うち預り保育数	28人			30人						
定員に対する充足率	44.4%	12.2%	11.1%	35%	62.5%	106.7%	66.7%	103.3%	87.8%	103.8%
充足率	30.4%				62.5%	97.3%				
建築年	S.60	H.2	S.59	S.58	H.2	S.63	H.3	H.26	H.10	H.26
建築経過年数	39年	34年	41年	41年	34年	36年	33年	10年	26年	10年

「待機児童対策」の早急な対応が必要

就労形態の変化等により、特に0歳から2歳の低年齢児の入所希望が多くなってきています。しかし、保育士等の不足により、受け入れできる園が無く、待機児童数が増加しています。

町の待機児童数の推移

単位：人

	待機児童から除かれる者				待機児童数
	① 求職活動中のう ち求職活動を休 止している方	② 特定の保育所を 希望されている 方	③ 育児休業中の方	小計 ①+②+③	
平成30年4月	0	0	4	4	1
平成31年4月	0	0	2	2	1
令和2年4月	0	0	7	7	2
令和3年4月	1	13	10	24	3
令和4年4月	2	7	7	16	6
令和5年4月	1	13	20	34	4
令和6年4月	3	15	16	34	8

「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」の設置

子どもたちにとってより良い幼児教育保育環境とは何かを最優先に、これから幼児教育保育の在り方等について具体的な方向性を検討し、将来に向け持続可能な幼児教育保育をすすめるため、「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」を令和4年7月に設置した。

(懇話会の委員体制について)

学識経験者 2名 保護者代表 4名

園代表 2名 福祉代表 1名

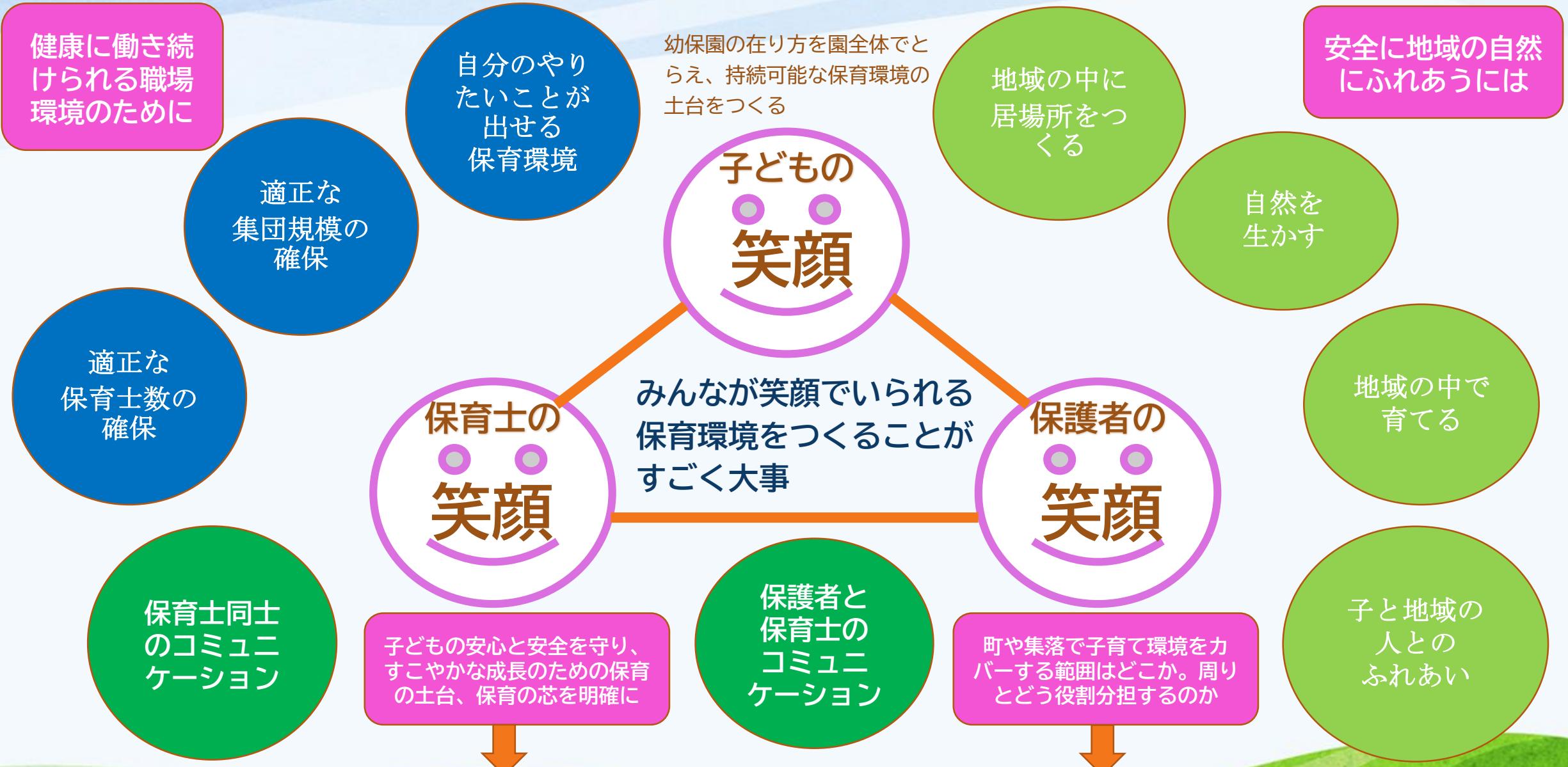
公募委員 4名

以上委員 13名

「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」の取組

- 在り方検討懇話会の開催回数:計10回
- 各種ワークショップの実施状況:開催回数37回 参加者総数 のべ692人
(保護者、保育者、町内7地区公民館 他)
- 先進地の現地調査:4回 (岡山県奈義町、長野県飯田市、新潟県出雲崎町、青森県十和田市)
- 各種委員会等への説明・報告 (日野町子ども・子育て会議、日野町教育委員会、日野町議会)
- 日野町長への報告:「子育て環境の未来に向けての提言(最終報告)」(令和6年2月21日)
- 「子育て環境の未来に向けてのシンポジウム」の開催(令和6年3月24日)

ワークショップから見えてきた子育て環境の将来像



町の子どもを取り巻く環境や課題など

課題①

- ◎核家族化や共働き、就労形態の多様化等により、長時間、低年齢児の保育ニーズの高まり
- ◎少子化による子どもの人数の減少
- ◎集団の中で育つ保育の実践

友人
会
同
人
社
僚

祖父母・
兄妹
親族

家庭

課題②

- ◎若者人口の減少による保育人材の確保対策
- ◎多様化する保育への対応（親の困り感、多文化共生）など
- ◎施設の老朽化に伴う更新について

援助の在り方の難しさ。園と保護者の相互理解・信頼関係の構築
の葛藤、業務量の増加
(子育て支援)
子育ちや親育ちのための相互支援

地域とのつながり
コミュニティーの希薄化・孤立化
隣近所同士の助け合い

子ども

保育所・幼稚園・こども園

地域

地域人材の先細り

運営協力・支援 地域人材の登用・提供

幼稚教育・保育

地域子育て

職員の資質向上

- ◎保育者的人材確保
- ◎保育者の研修機会の確保
- ◎組織体制の整備と強化
- ◎日常的な職員の学び合う姿勢と環境の工夫と充実
- ◎保護者や地域・他園・学校等の関係機関と連携を図りともに育てる「ネットワーク力」

自分たちのまちの将来像をどう描いていくか。
さまざまな世代の考えを受け止め、どうしたら
明るい展望が開くのか、思いを掘り下げていく

公民館を中心とした地域活動
◎地域課題を話し合い地域の教育力の向上をめざしていく

「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」の提言

- ア. 子育てしようとする人が住みたくなる住環境
- イ. 長時間保育ニーズ、保育士等の不足、園舎の耐用年数の超過、自然との触れ合いへの対応
- ウ. 保育者の目指す保育の実現への対応
- エ. 地域で育てる
- オ. 子育て環境の未来を支える体制づくり



多くの参加者の思いや意見をまとめたもので、大変重みのあるものであり、町として最大限尊重していく。

提言を受け町の基本的な考え方

○町の様々な課題について、待ったがきかない状況であり、町の未来を担う子どもたちにとって、より良い幼児教育保育施設環境を持続可能なものとしていくために、早期に「幼児教育保育の在り方検討懇話会」の提言を基本とした幼児教育保育施設の再編整備に取り組む。

○町全体の視点において、0歳児から5歳児まで、同じ環境下で、適正な集団規模の中で繋がりのある幼児教育保育を推進する。

町では次のような保育環境の整備を検討

1. 子どもにとって最善の保育環境を整える

① 幼児期の人格形成の土台をつくる大切な時期にしっかりとした愛着形成を育み、子ども同士で刺激しあい、自ら踏み出す力、子どもの主体性を伸ばす力を養成していく。

② ①の実現のために、適正な集団規模の確保を行い、子どもにとっての成長の場と、保育士等にとって子どもの成長を喜び合える働き甲斐のある職場環境をつくることにより保育の質の向上を目指す。

③ 子どもたちは地域の中でも健やかに育つもの。豊かな自然環境の中で温かい地域の方々と子どもたちがふれあえる保育環境をつくれるように努めていく。

④ 日野町で安心して子育てできるよう、だれもが望めば入園できる保育体制を整備する。

町では次のような保育環境の整備を検討

2. 保育環境の再整備をすすめる

①公立保育所・幼稚園は「幼保連携型こども園」にして、再整備を図る

→適正な園児集団規模の確保、保育士等の確保、保育の質の向上

②低年齢児が通える民営の地域型保育(※小規模保育事業)施設の設置をすすめる

→就労支援、待機児童ゼロ対策、愛着形成

※小規模保育事業施設とは、利用定員6人以上、19人以下で、保育を必要とする0歳から2歳児の子どもを保育する施設で、地域に密着し比較的小規模で家庭的保育に近い雰囲気の中できめ細やかな保育を実施するもの。

町の幼児教育保育施設の将来像(イメージ)

再編後

こども園（3園）



再編後

地域型保育（小規模保育事業） 施設（民間：2園）



※今後選定の予定

再編後

私立保育園（2園）

※現行通り（変更なし）

